

仏心と葬儀

― 最終回 ―

悲しみを、そして喜びを知る者として

2008年8月以来、毎月一回のペー
スでこちらの紙面をお借りして皆様にお
届けして参りました「仏心と葬儀」も、
無事掲載満了予定の第24回を迎えること
ができました。これもひとえに当コーナ
ーを温かくお見守りいただいた読者の皆
様のお心遣いの賜物と、心より感謝申し
上げます。

思い起こせば今を去ること42年前の昭
和43年、当時まだ20代のサラリーマンだ
った私は、前年に不慮の事故で2歳の一
人息子を、その前年には最愛の母親を立
て続けに失って「この世には神も仏もな
いものか」と悲嘆に暮れた末、家も仕事
も投げ捨てて未知の世界であった現在の
仕事「丸和堂」を設立したことは、今ま
でも当コーナーでご紹介してまいりま
した通りでございます。

以来、私は大切な家族を失った人の本
当の悲しみを知る者として、痛みや苦し
みを心底から分かち合えるような「心の
こもった」仕事を心掛けてまいりました。
それは、たとえば生活保護を受けられて
いる世帯の葬儀には祭壇や霊柩車の利用
を無料としたり、3歳未満の幼児が故人
さまの場合は、祭壇料を半額で奉仕させ
ていただくというような形でも表させて
いただいております。

そもそも右も左も分からないまま、ま
ったく未経験の葬儀業を始めようとした
折、私の将来を案じて「何を馬鹿なことを」
といさめてくださった周囲の友人をはじ
め、陰日向なく私をこれまで支えてくれ
た妻や社員など、実に多くの人々に支え
られてこそ今日の丸和堂があることを私
は決して忘れることができません。

今まで私が出会った大勢の人々、そし
て最期の旅立ちのお手伝いをさせていた
だいたこれまた大勢の方々との巡り会
いは、すべて前世からの約束事でもあった
ような仏縁・奇縁の賜物として感謝の念
に堪えません。

私たちはこれからも、今まで以上に不
思議な縁（えにし）で出会うことのでき
ます方々との巡り会いを大切に、そして
今まで以上に真心のこもったお見送りの
お手伝いをさせて頂くことを皆様にお約
束いたしました、「仏心と葬儀」最終回の
ご挨拶とさせていただきます。本当にあ
りがとうございました。